

小論文の書き方

小論文を書く能力は、大学受験や就職試験に必要なだけでなく、**社会で自己実現を図るために**、人に自分の考えを理解してもらったり、意思疎通を図り協働して仕事を行ったりするためにも必要である。次のようなことに留意して練習し、科学的で説得力のある小論文を書くための**表現力やコミュニケーション能力**を身につけよう。

I よりよい小論文を書くために

○書くこと

小論文には、“形式”があり、練習すれば誰でも書けるようになる。臆せず挑戦しよう。まずは、制限時間を気にせず書いてみる。そして、読み手（評価する人）が読んで正しく理解できる文章になるよう何度も読み返し推敲する。何度か書いて形式に慣れたら、時間を計って書く練習をしよう。

○知ること

日頃から新聞やニュースを読み聴き、考えのもとになる一般常識や幅広い知識を吸収しておく。特に、最近2年くらいのトピックス（出来事や話題）の内容を知っておくべきだ。

○考えること

幅広い話題について関心を持ち、普段から問題意識をもって考える習慣をつけ、どの話題にも自分なりの意見をもっておくことが大切だ。

II 小論文の書き方

（1）制限時間と字数 一すぐに書き始めずに、まず構想を立てること一

○制限時間の使い方

- ①まず、制限時間の1/4～1/3の時間を使って構想を練る。全体の構成と段落ごとの分量（行数）を決める。
- ②次に、1/2の時間を使って記述する。丁寧に楷書で書く。
- ③残りの時間で推敲をする。その際、大幅な書き直しはしない。ミスや細かな表現の修正を行い、仕上げる。

○字数

字数は、少なくとも制限字数の9割以上を書くこと。量が少ないと減点されるし、悪い印象をもたれる。

（2）段落構成のしかた

作文と違い小論文では、言いたいことをきちんと段落構成し、論理的に述べなければならない。評価のポイントは、主題に対して的確な問題提起がなされていて、考察と結論がはっきり書かれているか、という点である。

○段落構成のパターン

①三段落構成

基本的には三段落構成で書くとよい。文章量の割合は、**序論：本論：結論**＝3：4：3 または 2：6：2

②四段落構成

文章量の割合は、**序論（起）・本論1（承）・本論2（転）・結論（結）**＝2：3：3：2 または 2：3：2：3

○段落構成の内容例

①例示型

- | | |
|--------|------------------------------------|
| 序論（起） | ①主題に関する具体例とその問題点・課題 [現状または例示と問題提起] |
| 本論1（承） | ②なぜそうなるのか。理由の考察 [意見の提示] |
| 本論2（転） | ③視点・立場を変えた考察や自分と反対の立場の例示 [反論] |
| 結論（結） | ④問題点・課題の解決法について、具体例を挙げて説明 [解決策] |

②知識型

- 序論（起） ①題名の意味、または自分の意見の表明 [意見表明]
本論 1（承） ②問題の分析・理由・意見・背景 [考察]
本論 2（転） ③視点・立場を変えた考察や自分と反対の立場の例示 [反論]
結論（結） ④結論、理想像、今後の対策・解決策など [意見のまとめ]

[書けなくて困ったとき]

- ・ **テーマ（論点）** は、筆者が最も言いたいことや資料から読み取れる顕著な差、特徴点などを、1つ取り上げる。
- ・ **序論**の書き出しは、「最近…」、「現在…」と始め、「確かに…」、「しかし…」と見解や結論を書いてもよい。
- ・ **本論**は、「確かに…だからといって…」、「なぜなら……だからだ」などと書けばよい。
- ・ **結論**は、「したがって…」と結論をまとめればよい。

(3) 原稿用紙の使い方

- ・ タイトル、受験番号、氏名などが別枠にある場合は、一行目から書き始める。
- ・ 本文の書き出しや段落の初めは1マス空ける。意味のまとまりごとに段落とする。
- ・ 句点（。）や読点（、）、括弧などの区切り記号も1文字として扱う。ただし、会話文の終わりで、句点のすぐあとやかぎ括弧で閉じるときは、同じマスの中に（。）書く。
- ・ 行頭に、句点（。）、読点（、）、閉じ括弧（）をもってこない。これらは、前行の最後のマスの中に文字と一緒にに入れて書く。開き括弧（「、『」）を行の末尾に書かない。次の行の先頭に書く。
- ・ 物理量などは、英数字を半角と見なし2文字を1マスに入れても良い。なお、数値と単位記号の間に半角スペースを入れること。（ 22.4 L/mol など）
- ・ 引用文や会話は「」でくくる。「」は、強調には使わない。「いわゆる」の意味か、特別な意味を表す場合のみに使用。『』は書名や会話文中の会話の場合のみに使用する。

わかりやすい文章を書くための10カ条

- 1) 1文は短く。2行半以上は、長すぎ。
- 2) 文末は簡潔に言い切る。「だ。である。」調に統一する。（話し言葉はダメ）
- 3) 段落は、言いたいことひとつごとに分ける。指定文字数が200字以内のときは、段落分けをしなくてよい。
- 4) 段落の冒頭で、言いたいことを述べる。そのあとに説明を記述する。
- 5) 「そして、しかし、だから、確かに、また」などの接続詞をうまく使って、文と文をつなげる。
- 6) 引用は正確に行う。要約の場合を除き、他者の意見と自分の意見がきちんと分かる文にする。
- 7) 略語（省エネ、原発、デジカメなど）は使わない。記号は初出で定義して使用する。ただし、教科書や新聞などで一般に使用されている用語は使用してよい。（例）DNA、BTB、パソコン、pHなどの記号、化学式
- 8) 科学用語のうち漢字で書くべき語は正しい漢字で書く。しかし、不確かな場合、誤字を書くよりは仮名書きにするか、別の言葉で言い換える。（用語の表記は、教科書の記述に従う。生物名はカタカナで書く。）
- 9) 「その」、「それ」、「この」などの代名詞は何を指しているのか明確に分かるようにする。
「こと」、「もの」は、意味がぼやけるので、適切な単語で表現した方がよい。
- 10) 簡潔に書く。無駄な表現は書かない。
（例）「私は～と思う」「～というものは」という書き方は避ける。「私は、資源というものは、安定供給が欠かせないと思う。」→「資源は、安定供給が欠かせない。」

【練習】都市ガス（主成分：メタン CH_4 ）用のガス漏れ警報機は天井近くに設置するが、LPG（主成分：プロパン C_3H_8 ）用のガス漏れ警報機は床近くに設置する。この理由を次のキーワードを含む 150 字以内で述べよ。

【キーワード】 気体の密度と分子量 空気の密度と比べ [→ p.22~24]

【解答例】 アボガドロの法則から、気体の密度と分子量は比例する。空気の平均分子量 28.8 と比べて、メタンの分子量は 16 と小さく、プロパンの分子量は 44 と大きい。つまり、空気の密度と比べて、メタンは小さく軽く、天井付近に集まる。それに対して、プロパンの密度は大きく重い場合床付近にたまるためである。